

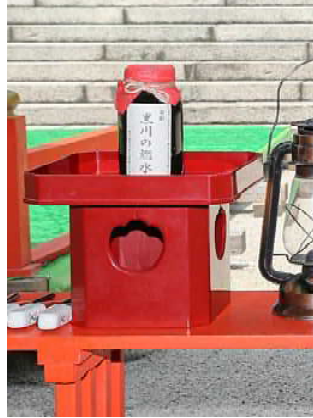
講社通信

近江神宮日供神饌講
新版第三十一号
平成三十年七月一日

本年の日供神饌講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、鳥取県講元講員の皆様により大膳職以下所役をご奉仕いただき、賑々しく斎行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げます。

燃水奉献一三五〇年

昨年大津京遷都一三五〇年を迎え、ここ数年、天智天皇時代のできごとから一三五〇周年が続きます。今年は一月十七日が崇福寺創建一三五〇年にあたりましたが、この七月は『日本書紀』に「越の国燃ゆる土と燃ゆる水とを奉る」と書かれた、燃水燃土の奉献から一三五〇年となります。石油、またエネルギーに関する日本史上最初の記述です。この記事には月まで日付が入っていないので、六月三十日饗宴祭の一週間後の七月七日、本年のように七日が土日になる場合は五日に燃水祭を行って



います。本年は一三五〇年ということもあり、燃える水に加えて燃える土をも奉献いただくことになっています。

流鏝馬神事と日本の民謡踊りの祭典

近江神宮の流鏝馬神事は本年度で第三十回となりました（雨天中止の年を含む）。六月に移し時の記念日の奉納行事として行うようになってから四回目となります。

六月三日、絶好の天候のもと、十二時三十分出陣、内拝殿で鏝矢



↑ 騎射

↓ 天長地久の式

奉献の儀、続いて表参道に降り、天下泰平、五穀豊穰を祈る天長地久の式。そして五頭の馬に乗った六名の射手による騎射が行われ、約五千名の観覧者を楽しませました。

恒例となった午前中の流鏝馬教養講座は日本古式弓馬術協会の豊田重之理事長を講師として流鏝馬の歴史や儀式次第などについて解説。百二十名を超える受講者には特別拝観者として、鏝矢奉献の儀にも参列していただいています。

同じ六月三日、昨年から始まった「日本の民謡・踊りの祭典」の第二回が開催。江州音頭を中心に和太鼓、大道芸や現代のポピュラー音楽も含めた歌と踊りなどを午前中から夕刻まで上演、江州音頭と源流を同じく



する河内音頭では、近江神宮の由緒にかかわる天智天皇、大津宮、漏刻、かるたなどを歌い込んだ新作歌も披露されました。

昭和の日コンサート「音の贈り物」

昨年四月二十九日に行われた大津京遷都一三五〇年記念コンサートから一年のこの日、昭和の日コンサート「音の贈り物」が開催されました。



の陽気の午後を楽しみました。

京阪電車の駅名改称

近江神宮へのアクセス交通機関である京阪電車のいくつかの駅名が三月中旬から改められました。とくにJR湖西線との乗り換え駅である旧皇子山駅がJRにあわせて「京阪大津京」と改称されました。乗り換え駅であることがわかりやすくなりましたが、京阪とJRと同名になり紛らわしくなったともいえますので、不案内の方はご注意ください。ほかに、浜大津駅が「びわ湖浜大津」坂本駅が

「坂本比叡山口」と改められ、京都地下鉄直通の浜大津行きは「びわ湖浜大津行き」となり、浜大津から近江神宮方面への電車は「坂本比叡山口行き」となりました。

巨大かるた大会

新聞紙一面大の巨大な百人一首のかるた札を使った巨大かるた大会が、超初心者を対象に昨年から行われています。楼門下に二十五枚並べたかるた札には決まり字が薄く書かれ、競技かるたの読手の読みに合せて札のところどころに走っていき、主に小学生五人づつ取り合うというものです。びわ湖大津観光協会の主催で、昨年八月に一度行われたあと、雨天中止が何回か続き、四月末に二回目が行われました。



本年後半の祭典行事

七月五日午前十一時 燃水祭
七月二十八・二十九日 全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

八月二十四日午前十一時 弘文天皇祭

八月二十六日午後一時 献書祭（全国献書大会表彰式）

十一月七日午前十一時 御鎮座記念祭

十二月一日午前十時 初穂講大祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi.jingu.org/>「日供神饌講」ページ